

ヤハズソウ (矢筈草)

名前の意味：葉をちぎると矢筈（矢の後ろの羽の部分）に似た形になる草という意味。

分類：双子葉類、マメ科、ヤハズソウ属

(マメ科の栽培植物：エンドウ、アズキ、ソラマメ、ダイズ、ラッカセイ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、空き地

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた（自生）

特徴：斜めに立ち上がる低い茎、ちぎると矢筈の形になる葉、小さなカラスノエンドウのような花

種子の運ばれかた：そのまま地面に落ちる

花弁の数：5枚、離弁（花びらが1枚ずつ散る）

花の時期：8－10月

食べ方：食べられるけれどもおいしくない

見分け方：ミチヤナギは、葉が白っぽい緑色で、ちぎっても矢筈の形にならない。

見つけやすさ ★★★

見分けやすさ ★★★

総合難易度 ★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)